

## 第3学年 社会科公民的分野 学習指導案

日時 平成30年11月29日(木) 3校時  
対象 3年A組(男子15名、女子7名、計22名)  
場所 体育館  
指導者 村口 明子

- 1 単元名 私たちの暮らしと経済 生産と労働  
「働きやすい職場を築くために」 ～未来につなぐ一中働き方研究所～ (4/4時)

### 2 指導の構想

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領地理的分野の内容B「私たちと経済」の(1)「市場の働きと経済」にあたる。この単元では、「消費生活を中心に経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などの仕組みや働きなどを理解すること、個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすること」などを主なねらいとしている。内容の取扱いについては、「仕事と生活の調和」という観点が示されており、「国民一人一人が生きがいや充実感」をもって働き「人生の各段階に応じて多様な生き方の選択・実現を可能とするため」にワーク・ライフ・バランスという観点から考察し、表現できるようにすることが大切であると示されている。

そこで、本単元では、豊かな暮らしとはどのようなものか、また自分はどのようにその暮らしを作るのかということをも単元全体の学習課題とし、小単元ごとに考察、表現させていく。課題の追求に当たり、特にこの小単元では、利潤を追求する企業が福利厚生や社会貢献など社会的な責任という側面ももつこと、労働は家計の向上だけでなく個性を生かすことであるとともに社会的分業の一部を担い社会生活を支えていることなど、着目すべき様々な観点到気付けさせながら学習を展開していく。

現在日本では、「働き方改革関連法案」が成立し働き方に関する様々な議論がなされている。幸せな生き方や豊かな暮らしとは何かということへの考え方はますます多様化し、一方、企業は厳しい国際競争や人手不足など様々な困難に直面している。このような中だからこそ、将来の担い手である生徒一人一人が自分自身の労働の在り方について考察することの意義は大きく、本単元は現実の経済に対する関心を高め、経済に関する課題をよりよく解決しようとする力の育成につなげるものである。

#### (2) 生徒観

<2年時のCRTの結果より> \*平成30年3月8日実施(対象22名)

観点	全国比
社会的な事象への関心・意欲・態度	130
社会的な思考・判断・表現	115
資料活用 of 技能	107
社会的な事象についての知識・理解	121

<アンケート調査の結果より> \*平成10月30日実施(男子15名、女子6名、計21名)

#### ■授業全般について

1 社会の授業が	好き・どちらかといえば好き	17人(男子13人、女子4人)						
	嫌い・どちらかといえば嫌い	4人(男子2人、女子2人)						
2 関心のある分野は(複数回答可)	地理	9人	歴史	8人	公民	10人	ない	0人

3 授業のようすを振り返って	はい	いいえ
①ペアやグループでの交流や話し合いには、意欲的に取り組んでいる。	21人	0人
②ペアやグループでの活動は、学習内容を理解するのに役立っている。	19人	2人
③ペアやグループでの活動は、自分の考えを広げたり深めたりするのに役立っている。	21人	0人
④授業中の発言（全体、グループ）は、積極的にしている。	11人	10人
⑤学習に役立つように、意識してニュースを見るようにしている。	6人	15人

■ 3年間の社会科の授業や勉強を通して「高まった力（資質・能力）」について（抜粋）

4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

質問項目	4	3	2	1
先生の話や資料などから、「なぜ？」「何だろう？」と疑問を見付ける力	4	12	5	0
一つの考えで終わらせず、様々な立場や視点から多面的に考える力	8	9	4	0
相手と意見を交わし、自分の考えを広げたり深めたりする力	10	9	1	1
学習内容を踏まえ、キーワードを用いて自分の考えを文章にまとめる力	9	7	4	1
資料（グラフ、図、写真など）から必要な情報を読み取る力	7	12	2	0
自分自身や自分の将来と結び付けて学習しようとする意欲	7	11	2	1
よりよい世の中にするために自分に何ができるか考えようとする意欲	8	9	4	0

■これから学習する「経済」について

①今の日本の経済・産業のようすについて、知っていることを書いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税が10%になる（3人）</li> <li>・円安のニュースをたまに見る</li> <li>・働き方改革</li> <li>・人手不足</li> <li>・産業では漁業の漁獲量が年々減っている</li> <li>・少しずつ景気は良くなっている</li> <li>・貧富の差</li> <li>・輸入に頼っていて、また世界恐慌のようなことが起きたら危ない。自給率を上げないといけない</li> </ul>
②「働き方改革」について、知っていることを書いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き過ぎを解消</li> <li>・過労死を減らすため</li> <li>・休みを取りやすくする</li> <li>・時間になったら帰る（2人）</li> <li>・働く時間を短くする（2人）</li> <li>・プレミアムフライデー（2人）</li> </ul>
③将来自分が働くとき、何か不安はありますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下関係、人間関係（4人）</li> <li>・しっかり働けるか（2人）</li> <li>・リストラ</li> <li>・パワハラ</li> <li>・同じ会社で長く働けるか</li> <li>・科学の発達でなくなる仕事があり、自分が希望する仕事は残るのか</li> </ul>
④将来どんな職場で働きたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく居心地がよい職場（6人）</li> <li>・笑顔あふれる職場（3人）</li> <li>・人間関係で困らない（3人）</li> <li>・ハラスメントがない、相手を思いやりながら働ける職場</li> <li>・自由に意見が言える</li> <li>・自由に働ける</li> <li>・一定の休みを取れる</li> <li>・個人でリラックスできる場がある</li> <li>・No!ブラック企業</li> <li>・残業が多くない</li> <li>・快適な環境の職場（2人）</li> <li>・仕事に就ければよいので、どんな職場でもよい</li> </ul>

■本校で掲げる学習スキルについて

観 点	社会科の学習を通して身に付いたと思う学習スキル
主体的な学び	興味・関心 16名、自分と結ぶ 11名、振り返り 10名、粘り強さ 3名、見通し 0名
対話的な学び	情報収集 14名、協働解決 11名、考えの比較 10名、説明 8名、先哲の考え 1名、表現化 1名、共に創る 0名
深い学び	習得 9名、活用 6名、思いと結ぶ 3名、概念化 3名、問い続ける 2名、考えの形成 2名、新たな創造 0名

アンケート調査の結果より、学級の8割は社会科の学習に対して前向きであり、分野別では公民的分野への関心が他より若干高かった。さらに詳しくアンケートへの回答を見ると、社会科が好きでない生徒でも、現在学習している公民的分野には関心があることが分かった。好き・嫌いの理由には、「世の中のことを知る」ことの面白さと理解しきれない難しさが記述されており、生徒にとって難しい世の中の仕組みについて「分かった」と感じることの重要性が表れている。

授業ではペアやグループでの活動を日常的に行っているため、その必要性や効果については生徒自身が実感しているところである。さらに、ニュースを見る習慣のある生徒が少なく全体的に時事問題に疎いが、詳しい生徒との交流により、もっと自分も関心を高めようという雰囲気が徐々に作られてきた。

世の中への関心を高めることの他に大きな課題なのは、批判的な思考力である。真面目な生徒が多く、与えられた課題には一生懸命に取り組むが、素直であるが故に物事をそのまま受け入れてしまう傾向がある。「なぜ」、「これは何だろう」、「本当にそうか」、「もっと良い方法はないか」などといった見方や考え方は、変化の激しいこれからの社会で活躍するには欠かせないものであろう。また、社会の形成者としての参画意識も高めたい。学習スキルに関するアンケートの回答にも表れているように、自分に結び付けて考えてはいるが、思いと結び付けて自分なりの考えを形成するスキルはまだ身に付いていないと感じているのが生徒の実態である。そこで、自分事として追究していく学習課題の設定に重点を置き、学習内容を踏まえて考えをもち表現できるよう継続して指導を行ってきた。前単元である政治の学習では、「3年後、私は有権者としてどのように政治に参加するのか」というテーマのもと追究し、各自が有権者となる自分の姿を授業での学びを踏まえ文章で表すことができた。

本単元においても、消費者としての自分や労働者としての自分など学習内容を自分と結び付けて考え、その上で目指すべき社会の姿へと視野を広げさせていく。生徒が望む「職場の人たちとともに笑顔で生き生きと働く」ことができる職場や社会の在り方を、様々な資料を読み解き他者と対話することによってキーワードを見付け、自分なりに表現できるようにさせたいと考える。

### (3) 指導観

本単元では、「豊かな暮らしを私はこう作る」という単元全体のテーマを掲げ、節ごとに課題を追求していく。さらに、生徒には「未来へつなぐ一中働き方研究所」の研究者という役割を与え、研究チームは現在希望している職種をもとに編成した。このような活動を設定することにより、自分事として課題解決に向かわせるとともに、学びからさらに問いが生まれる探究的な学習となり、批判的に考え建設的に提案する力の向上につながるものとする。

さらに、本単元での学びを深めるために、総合的な学習の時間や道徳、学級活動での学びと関連付けて学習活動を進める。職場体験やドリームマップの作成、また「君たちはどう休むか」という特集記事を用いての話し合い活動など、生徒は自分の生き方を見つめ、将来を思い描く学習をこれまで積み重ねてきた。それらの学びと教科の学びをつなげて単元を構成していくことで、単元テーマを追求する必然性をもたせ、学習効果を高めたい。

指導に当たっては、ペアやグループなど協働的な活動を取り入れるとともに、ICTや思考ツールを活用し、課題解決に必要なことを生徒自身に見出させたい。特に思考ツールについては、考えを広げたり、資料から読み取った情報を整理し、焦点化して考えたりする場面で活用する。

また、資料を読み取り考察していく場面では、労働者という立場だけでなく、使用者の立場、さらには政府の立場でそれぞれの思いや役割について考えさせる。それらを比較し、関連付けていくことによって、豊かな労働の在り方について、自分の思いと社会全体の豊かさとをつなげながら考えを形成する力を身に付けさせたい。そしてそれは、持続可能な社会を築こうとする資質・能力の育成につながっていくものとする。

- (ア) 【主体的な学び】 振り返って次へつなげる
- (イ) 【対話的な学び】 互いの考えを比較する
- (ウ) 【深い学び】 自分の思いや考えと結び付ける

3 指導計画（本小単元は4時間扱い）

時	指導目標	指導内容	観点別評価			
			関・意・態	思・判・表	技能	知・理
1 節 (5)	単元全体のテーマ <一中働き方研究所の研究テーマ> 豊かな暮らしを私はこう作る！		◎			○
	1 節のテーマ 豊かな消費生活を私はこう作る！		※単位時間の評価については、別に定める。(以下、3～5節も同様)			
2 節 (4)	資本主義経済における企業の生産活動について、企業の種類や目的の違いを捉えて説明させる。 学習テーマを設定し、見通しをもたせる。	資本主義経済の仕組みを図式化して捉える。 公企業・私企業、また大企業・中小企業の違いに着目して企業の経済活動について捉え、関心を高める。	◎			○
	2 節のテーマ 豊かな労働の在り方を私はこう考える！					
	株式会社の仕組みについて、資金の流れに着目して捉えさせる。 現代における企業の社会的責任について考えさせる。	株式会社の仕組みを図式化し、資金の流れから企業と株主の関係や生産活動について捉える。 企業の社会貢献の活動事例から、その役割や責任について考える。		○	◎	
	労働者の権利について、憲法や法律で保障されている内容を把握させ、現在の労働の問題と関連付けながら考えさせる。	労働三法で定められている内容が労働者の権利とどのように結びついているか指摘する。 資料や事例から労働に関わる様々な問題があることに気付く。		○		◎
4 本時	豊かな労働の在り方について、資料から読み取ったことをもとに今後考えていかなければならない視点に気付かせ、自分の将来と結び付けて考えさせる。	雇用の現状に関する資料を、労働者と使用者それぞれの立場から読み取る。 読み取った情報を整理してワーク・ライフ・バランスや社会貢献などの視点を見出し、豊かな労働の在り方について考えを記述する。		◎		
3 節 (5)	3 節のテーマ 豊かな市場経済を私はこう考える！			◎	○	
4 節 (4)	4 節のテーマ 豊かに生きる社会保障を私はこう考える！			◎		○
5 節 (3)	5 節のテーマ（単元全体のテーマへのまとめ） 豊かな暮らしを私はこう作る！		○			◎

#### 4 本時の計画

##### (1) 目標

豊かな労働の在り方を、雇用の現状や課題についての資料をもとに、労働者や使用者の立場で多面的・多角的に考えることによって、今後考えていかなければならない生きがいやワーク・ライフ・バランス、利潤の追求や社会への貢献などの価値に気付き、自分の将来と結び付けながら記述することができる。

##### (2) 校内研とのかかわり

###### ① 教科の研究目標

生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるためには、単元を見通して自分の生活や将来に結び付く学習課題を設定し、授業で習得した知識・技能を活用して課題解決を図る協働的な学習活動を行うことが有効であることを、実践を通して明らかにする。

###### ② 教科の研究仮説

- ・授業の導入や終末の場面で学習内容を振り返る活動を設定することで、活用する力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が身に付くであろう。
- ・意思決定を迫る学習課題や発問を単元の中で設定することで、課題解決に取り組もうとする主体性ととも、根拠をもって自分の考えをまとめ、表現する力が身に付くであろう。
- ・課題解決のためにペアやグループで調べたり意見を交流したりする協働的な学習活動を設定することで、習得した知識や技能を活用する力が育まれるであろう。

###### ③ 授業の観点

(ア) 【主体的な学び】 振り返って次へつなげる

(イ) 【対話的な学び】 互いの考えを比較する

(ウ) 【深い学び】 自分の思いや考えと結び付ける

本時は2節のまとめの学習であり、授業や他の活動を通して得た知識を使いながら考えを深めていくことが大切である。これまでの様々な学びをイメージマップの作成によって整理し、課題解決の見通しをもたせたい。また、多面的・多角的な思考力を働かせられるよう、資料との対話と他者との対話、他者の考えとの比較と立場（労働者や使用者）の違いによる考えの比較という観点から協働的な活動を展開させる。現実の諸問題やそれぞれの立場の主張、世の中の動きなどと結び付けながら、自分が思い描く未来の職場や働き方について見つめ、その実現のために自分がどのように関わっていけばよいのか考えさせたい。

また、本時では労使それぞれの立場に立つグループ以外に、公務員系のグループを作る。そこでは、1年生の時から取り組んできた総合的な学習の時間（「若鷹タイム」）におけるふるさと学習での学びを生かしたい。そうすることで、振り返って次へつなげる学びのサイクルが生まれ、さらに深い学びへと結び付くものとする。

##### (3) 観点別評価規準

観点	評価規準 (評価方法・場面)	評価基準		
		十分満足 A	おおむね満足 B	Bに達しない 生徒への支援
思考・ 判断・ 表現	豊かな労働の在り方について、資料から読み取ったことをもとに、自分の将来と結び付けながら記述することができる。	豊かな労働の在り方について、資料をもとに労使双方の立場から考えたことと自分の将来とを結び付けて記述できる。	豊かな労働の在り方について、資料をもとに考えたことと自分の将来とを結び付けて記述できる。	K J法でまとめたポイントに着目させる。

(4) 展開

段階	教師の働きかけ	予想される生徒の反応と活動	留意点・評価
つかむ	1. 単元、節の学習テーマの確認。 2. 「働く」のイメージを広げよう。 互いのイメージマップを見てみよう。	1. 本時の位置付けを知る。 2. 「働く」を中心に、イメージマップを作成する。3人で取り組み、iPadで撮影、送信する。	【ICTの活用】 【主 振り返って次へつなげる】*動機付け ・マイナスのイメージを取り上げ、学習課題につなげる。
見通す	3. 本時の学習課題の提示。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">2節テーマ「豊かな労働の在り方を私はこう考える！」について、労働者と使用者、両方の立場から考えよう。</div>		
解決する	4. 雇用の現状について分かることを資料から読み取ろう。 ・雇用形態の変化 ・収入の格差 ・外国人労働者の増加 など 5. グループで、付箋に書いた雇用の現状を整理しよう。	4. 資料を読み取り、雇用の現状について分かったことを付箋に書き出す。 5. 読み取ったことを出し合いながら、労働者と使用者どちらの立場に関わることか、付箋を分ける。 さらに読み取れることはないか話し合い、付箋を追加する。	・必要があればノート等を見ながら、できるだけ多く書く。 *方向付け ・グループ編制は職場体験の職種に基づく。 【対 互いの考えを比較する】
伝え合う	6. 2つの立場（労働者と使用者）に分かれてグループを組み、「豊かな労働の在り方」を考えるためのポイントを見付けよう。 ①元の班の中で2つの立場に分かれ、他の班の同じ立場の人と新しいグループを作る。 ②持ち寄った付箋を紹介し合い、KJ法で分類する。 ③分類した内容ごとに項目名を付ける。 7. 労働者、使用者、公務員系のグループごとに、KJ法でまとめたものを発表する。 ・賃金の格差解消 ・ワーク・ライフ・バランス ・労働者の確保 ・社会への貢献 ・生きがい ・地域活性化 など		・公務員系のグループは、分かれずにそのまま活動する。地域活性化に関する資料を追加し、考えさせる。  *意味付け
深め・広げる	8. 今広がっている新しい働き方のスタイルを見てみよう。 ・コワーキングスペースの活用	8. 提示された資料から、働き方の特徴を読み取り、気付いたことを発表する。 ・それぞれ様々な仕事をしている人が自由にスペースを使っている。 ・人と人のつながりで新たな仕事を生み出している。	・BigPadで資料を提示する。 ・新たなスタイルの働き方の事例から、前向きに未来の働き方を思い描けるようにする。

まとめ 振り返り	9. 労働者、使用者どちらの立場の考えも取り入れて、自分の考えをまとめよう。	9. KJ法で出てきたポイントの中で重要だと思うものを、労働者、使用者どちらからも選び、テーマについて自分の考えをまとめる。	【深 自分の思いや考えと結び付ける】 *価値付け 評価 豊かな労働の在り方について、資料から読み取ったことをもとに、自分の将来と結び付けながら記述することができる。  <対策> KJ法でまとめたポイントに着目させる。  ・今後の働き方改革等に注目していくことを働きかける。
	<p>(労働者・使用者のグループの生徒の例)</p> <p>私にとっての豊かな労働の在り方とは、ライフ・ワーク・バランスを大事にしながら、仕事では職場の人と協力して一生懸命働くことです。夢を叶えて頑張りながら、家族との時間や趣味も大切にしたいです。しかしこれは職場も工夫しないと実現できないので、新商品を企画するときは家でも働けるようにするなどみんなの声を生かしてくれる職場がよいです。私自身もよりよい意見を出して、楽しく充実した働き方ができると思います。</p>		
	<p>(公務員系のグループの生徒の例)</p> <p>私にとっての豊かな労働の在り方とは、人の役に立つ仕事をして社会に貢献し、そのことに生きがいを感じて生活することです。地域や住民のためになるような仕事がしたいです。世の中には色々な働き方や生き方をしたい人がいると分かったので、地域で応援できるように、働く人と企業をつなぐ役割ができたならとてもやりがいがあると思いました。</p>		
10. 全体の前で発表しよう。(数名)	10. 学習テーマへの考えを発表する。		

## 5 板書計画

本時の学習課題		
<労働者>	<使用者>	*行政
・	・	・
・	・	・
・	・	・
まとめ		

主 振り返り  
対 考えの比較  
深 思いと結ぶ

### 移動式ホワイトボード

- ・学習課題の提示
- ・KJ法のシート

### BigPad

- ・資料の提示
- ・イメージマップの提示